活動記録書

開催日： 令和6年2月1日(木) 天候：薄曇り	開催テーマ： 「国宝へようこそ」DVD鑑賞
開催場所： 金沢公会堂多目的室	記入者： 金久保 常二
参加人数： 会員 28名、準会員 6名 合計 34名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>1. 迎賓館赤坂御所</p> <p>日本で最初の西洋風宮殿建築として造られ、日本洋館の最高峰と言われる「迎賓館赤坂離宮」、明治42(1909)年東宮御所として誕生した。昭和49(1974)年には迎賓館として、世界各国の国王や大統領などを賓客として迎える場となった。平成21(2009)年に、創建当時の建造物である旧東宮御所本館、車寄及び階段付属、正門・塀、東西衛舎、主庭噴水池、主庭階段が国宝に指定されている。</p> <p>DVD「迎賓館赤坂離宮」は絢爛豪華な世界へと我々をいざなう。晩餐会が開かれる「花鳥の間」の壁には、日本ならではの美しい木目。当時最高の技を駆使した30枚の七宝焼が彩っている。かつて舞蹈室と呼ばれた部屋「羽衣の間」を照らすシャンデリアに目を凝らすと、仮面や鈴の意匠がキラリ。海外からの賓客を温かく迎える。今も現役で使われている。“生きた国宝”である。</p> <p>2. 姫路城</p> <p>400年以上前、江戸時代初期に築かれた姫路城は、築城以来大きな戦災を受けず、大天守や小天守、櫓などおおよそ100棟近くの建造物が現存している事から「不戦・不滅の城」と呼ばれる。日本の城の集大成と呼ばれる白漆喰で塗り込められた外観が、まるで羽を広げた白鷺の群れに見える事から、別名「白鷺城」と呼ばれ親しまれている。</p> <p>姫路城の生みの親、武将池田輝政の存在がある。「国宝へようこそ」では唯一彼に「裏の主人公(表は姫路城の美)」として登場している。姫路50万石の領主として「美しく強い城づくり」に尽力した男である。彼がどんな思いでこれほど美しい城を築いたか終盤で一つの説を紹介している。天守の内部、壁、瓦、縄張りの仕掛けに至るまで、輝政が、そして彼のもとで腕をふるった職人が、とてつもないこだわりを持って築城したことだけは、400年の時を越えてなお、ひしひしと伝わってくる。</p> <p>●ヨーロッパの代表的な宮殿のデザインを参考にして造られた最も新しい国宝と、どの角度から見ても美しい姿、その一方で日本一と称される鉄壁の守りの大きな役割も担ってきた名城だけあって、大変見応えがあった。</p>	
参加者の状況・意見など：	
NHK番組「プラタモリ」で「鎌倉の寺～北条氏の寺で分かる！鎌倉幕府の偉業とは～」が2月3日・2月10日放映される事を、司会者より貴重な情報としてアナウンスされた事はグットタイミングで良かったと思います。	
次回の予定：	
令和6年3月7日(木) 10時大船駅西口集合 テーマ：玉縄の室町から江戸時代	